〇記入用紙

JWUシーズ

※＝入力必須項目

研究者名※	大沼義彦 Yoshihiko Onuma	学位※	体育学修士
所属※	人間社会　学部 現代社会　学科	職名※	教授
連絡先	oonumay@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0166459		
研究分野※	複合領域、健康・スポーツ科学、スポーツ科学		
研究キーワード※	スポーツ社会学		
共同研究・競争的資金等の研究課題	「オリンピック後のスポーツティング・レガシー構築に関する社会学的研究」基盤研究(C)2015-2018(代表) 「東南アジアにおけるサッカー移民とグローバリゼーション」, 基盤研究(B)2016-2018(分担) 「ポスト五輪を見据えたスポーツ政策の戦略性に関する研究」基盤研究(C)2012-2014(代表) 「スポーツ人材育成と社会移動の社会学」, 基盤研究(B)2012-2014(分担) 「東アジアにおけるメガスポーツイベントと都市再編をめぐる比較社会学」基盤研究(B)2009-2011(代表) 「集客スポーツを利用した都市活性化と地域変動:中核都市と周辺部に着目して」基盤研究(C)2006-2007(代表)		
社会貢献・産学官連携活動等	札幌市スポーツ進行審議会委員(2007-2008) 札幌市勤労青少年ホーム運営審議会委員(2006-2008) (財)北海道体育協会普及・生涯スポーツ委員会委員(2006-2008) 第22回全国健康福祉祭北海道・札幌大会基本構想検討委員会委員(2005-2006)		
受賞歴			

研究領域	スポーツ社会学	(SDGs)
研究テーマ※	スポーツ・メガイベントと都市再編に関する研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 (1)スポーツ・メガイベントに関する研究:五輪やサッカーW杯は特に開催都市住民にどのような影響を及ぼすのかを、都市開発やそこに暮らす人々の視点から明らかにすることを目的にしています。 (2)スポーツと地域づくりに関する研究:近年では各地にプロスポーツクラブが設立されています。それらは集客スポーツとも言えますが、同時に観光や市民スポーツ、ボランティア活動などとも関りをもっています。これらスポーツを通じたまちづくりの現状と課題について検討しています。 (3)スポーツの現代化に関する研究:主にイギリスのスポーツ史を検討することから、社会階層、人種・民族を横断していくスポーツという文化の現代的あり方、その意義を明らかにすることを目的にしています。 【応用例、研究の展望】 ・スポーツメガイベントを開催するには、多くの人々が関わることになります。それだけにイベントの評価は多面的です。その多面体の全体像を把握すると、現在のスポーツメガイベントの意味や意義もまた変わっていきます。海外での事例と比較すれば、そのオルタナティブも見えてきます。それはまた、スポーツの今後の在り方を展望したり、私たちの生活や社会、文化を考えていくことにつながっていきます。	
本研究関連特許・論文等	・オリンピック・レガシーの生活化へ:2012年ロンドン大会の企図と課題、松村和則・前田和司・石岡丈昇編『白いスタジアムと「生活の論理」:スポーツ化する社会への警鐘』, 東北大学出版会, pp. 273-305.2020年 ・『サッカーのある風景:場と開発、人と移動の社会学』(共編著), 晃洋書房, 2019年 ・「走る私」をモニタリングする「私」, スポーツ社会学研究 26(2): 55-65, 2018年	
共同研究・外部機関との連携への期待		